

# 日刊 動労千葉

85. 6. 5

No. 1956

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七二〇七

# 『3億円かけた動力車会館改築』をめぐって金銭授受の疑惑

## いきつく所まで行きついた動労「本部」革マルの腐敗

### いま動労を何処までいけるのか

動労「本部」は五月十日に第一二七回臨時中央委員会を開いたが、「動力車会館改築工事」をめぐるズサンな手抜き工事の実態と、入札時の金銭授受の疑惑が暴露され、革マル派による動労組織の私物化が改めて浮きぼりにされている。

#### おどろくべきズサン工事

動労「本部」は三億円をかけて会館の改築工事を実施したが、第一二七回臨時中央委員会に提出された「動力車会館建設運営に関する第四次報告書」の中で驚くべき事実が明らかになった。

#### 「報告書」によると次のとおりである。

会館は、本年一月二〇日に完成する予定であったにもかかわらず、工事が大幅に遅れ、二月二五日に実施した工事検査の結果、なんと「未施工部およびダメ工事箇所が一五〇カ所」に及んでいる事実が判明した。そこで「工事がすべて終了しない限り『引渡し』には応じない」とする動労「本部」と、「二月十日の会館開業に間に合ったから受け取れ」とする建設会社とが対立し、「違約金」支払問題等々、混乱を続ける中で、三カ月以上も遅れた四月末日になってようやく「完成」にこぎつけたとしている。

#### 松崎等革マル分子のみで構成された建設委員会

「動力車会館建設運営委員会」のメンバーは、委員長に福原福太郎（書記長）、事務局長に小谷昌幸（総務部長）、委員に押留俊弘（財政部長）緒方博恭（組織部長）、松崎明（東京地本委員長）というように、全員革マル分子で構成されている。

この「会館建設運営委員会」は、工事が大幅に遅れた理由について、「請負会社に大工事をおこなうだけの力量が不十分であったため、直接的契約責任者である福祉事業協会に改築工事をおこなう重大な責務の自覚が薄かった」として、福祉事業協会に一切の責任をおしつけようとした。

ところが、四月二〇日になって「設計事務所」側から、①入札を秘密裡におこなった、②福原書記長、小谷総務部長、押留財政部長、平原副理事長は中出某を利益代表人に、入札に関して金銭の授受が存在していたことを指摘する、③十日以内に自己批判と明確な態度なき場合は関係者に公開

する、を主旨とする「内容証明書」が送付されてきたのだ。

「会館建設」問題の核心にせまる重大な問題について「報告書」では「直ちに調査団を派遣した結果、不正入札、金銭授受はなかった」としている。

#### 動労大改革をかちとれ！

今回の「会館建設」をめぐる起こった様々な問題は、動労組合員の間で決定的な疑惑と不信感を与えている。

革マル分子は、革マル弁護士をはじめとする「調査団」なるものでいち早く「事実」を否定し、一切の責任を福祉事業協会・福田理事長の辞任と担当特執の解任でごまかし、組合員の追及をそらそうとしている。

しかし、「火のないところに煙はたたない」のである。

三億円という貴重な組合費を支出する問題で、完成が三カ月も遅れ、しかも関係者から「金銭の授受」等が「内容証明書」で指摘されたことは明らかに執行部の責任問題である。

われわれは、革マルによる組合私物化について警鐘を乱打してきたが、「会館建設」をめぐる、はからずもその事実の一端が暴露された。

革マルを一掃し、動労大改革をかちとれ！

5日	ヤ15回「引こ」公判、10時千葉地裁
11日	「サンデー」公判、10時30分・東京地裁
12日	乗務員分科ヤ2回学習会、10時・千葉駅
14日	サークル協・野球大会、9時・スポーツセンター
17日	シ・シ（準）速シ、千葉公園球場
18日	シシ へら鮎フリ大会、4時・三島湖
22日	シシ 田基将棋大会、9時30分・動力車会館
29日	ヤ3回労働学校、13時30分・動力車会館

「反核闘争について」